

冬の地震・津波への備え

冬に大地震が起こると、強い揺れや津波の被害に加え、雪や寒さによるリスクが加わります。怪我や命の危険にさらされることがないように、以下の点に注意して備えて下さい。

1. 雪に対する備え

屋根に雪が積もっていると、地震の揺れにより、落雪や、家屋の倒壊が起こる恐れがあります。落雪は、人を巻き込む危険のほか、避難路をふさぐ原因にもなりますので、十分に注意しましょう。また、山沿いや傾斜地では、雪崩にも注意してください。避難の際は、路面状況を確認して慌てず移動しましょう。



2. 火災に対する備え

暖房器具を使っている冬場に地震が発生すると、火災のリスクが高まります。暖房器具のそばには可燃物を置かないようにして下さい。また、転倒時の自動停止機能があっても、復電による再起動や漏電が原因で出火する「通電火災」にも注意が必要です。避難の際には、ブレーカーを切りましょう。



3. 寒さへの備え

地震で電気やガスが止まり、暖房器具が使えなくなるかもしれません。こんな時にも使用できるポータブルの暖房器具を用意しておくことで安心です。また、避難に備え、防寒着や防寒靴、毛布、カイロなどを準備しましょう。



▼お問い合わせは、役場総務・防災課防災・デジタル推進室（01372-7-2111）へ。

○ 駒ヶ岳火山観測情報 ○

令和6年9月に観測された駒ヶ岳の状況についてお知らせします。

- 全般** 火山活動は、概ね静穏に経過しています。長期的には、噴気活動や地殻変動に活発化の傾向がわずかに認められており、今後も活動の推移には注意が必要です。噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）に変更はありません。
- 噴煙活動** 山頂に設置した監視カメラでは、昭和4年火口及び明治火口でごく弱い噴気を観測しました。昭和4年火口でごく弱い噴気を観測した日数は、2021年頃から増加する傾向が認められています。9月12日に実施したヘリコプターによる上空からの観測では、山頂火口原内の各火口の状況に特段の変化は認められません。
- 地震活動** 今期間、火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。火山性微動は、観測されていません。
- 地殻変動** GNSS連続観測では、2022年頃から山頂付近の膨張を示すと考えられるわずかな変化が一部で認められていましたが、2024年1月頃から概ね停滞しています。長期的には、山頂火口原を挟む基線では断続的にわずかな伸長が認められます。
(GNSS観測：GPS含む衛星測位システムの総称)

- ①詳細は札幌管区気象台ホームページでも閲覧することができます。<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>
- ②気象庁ホームページに駒ヶ岳の火山観測データが掲載されています。火山活動状況などの把握にご利用ください。<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/open-data/open-data.php?id=113>